

## 平成27年度第4回「知事と一緒に生き活きトーク」の発言要旨

1 テーマ：「農産物直売所を活用した儲かる農業の実現」

2 日時：平成27年10月6日（火）

3 場所：鏡野町物産館「夢広場」

4 参加者：農産物直売所の支配人、農産物直売所を活用している生産者 8名

### 5 知事挨拶

農業では、食糧が足りない頃は量を作ることが求められたが、今は、美味しい、料理に使いやすいなど色んな好みに対応していかなければ儲からなくなった。農産物直売所は、作る人が買う人と直接話ができ、消費者の声が届きやすい。儲かる農業の実現について、直売所の支配人や出荷している生産者の話をお聞きしたい。

### 6 発言内容

#### 【販売や集客、生産等で工夫している点】

- ・ 生産者と消費者の語らいを重視しており、生産者には、POP等で食べ方を紹介してもらっている。（直売所）
- ・ どの季節にも、色んな野菜があるように生産者を増やし、十人十色の野菜を作ってもらっている。（直売所）
- ・ 鮮度のいいもの、品揃えを良くすることに努めている。（直売所）
- ・ トマトをそのまま出荷するだけでは限界があり、地域と連携して加工にも力を入れ、付加価値をつけている。（生産者）
- ・ 加工品の開発に当たって、主婦の視点を生かしたパッケージにするなどの工夫をしている。（生産者）
- ・ シメジを直売所に配達する際に、店頭でお客さんとよく話をする。お客さんと仲良くなり、それが売上げにつながればいい。（生産者）
- ・ 直売所は、出せる日に出せる量を出し、値段も自分で決めるのが魅力だ。一定量を出荷しなければいけない売り先と直売所の両方を確保するようにしている。（生産者）

#### 【出荷者への要望】

- ・ 残った商品の自己管理をきちんとしてもらえると助かるし、足りなくなった場合に、無理をしても持ってきてくれる人は有り難い。（直売所）
- ・ 生産者の目線ではなく、商品を手に取る消費者の気持ちになって出荷していただきたい。（直売所）

#### 【直売所を活用して良かったと感じていること】

- ・ 販売状況がメールで配信されており、商品の売れ行きが分かるので助かる。また、POP表示を通じてお客さんにPRできることや安定した量を出荷でき

ることも有り難い。（生産者）

- ・ 直売所出荷は、運送など、経費も時間もかかるが、それ以上に、直接美味しいと言ってもらえる、買ってもらえる有難さを感じている。（生産者）
- ・ 直接、お客さんに叱ってもらえるということも有り難い。売れ残りは、評価であり、すぐに、評価を受け取ることができる。自分の裁量で売り切れるようにしたい。（生産者）

### 【儲かる農業の実現のため、県内農業に必要と感ずること】

- ・ うちで作業をしているのは、子育て中のお母さんが多い。農業は短時間の就業体制が可能で、若い方、むしろ女性などが働きやすい産業だ。それをコントロールできる経営者がもっとたくさんいれば良い。（生産者）
- ・ 生産した農産物を全て使い切ることが重要だ。加工など、そういう工夫ができる人がいて、その下で楽しく農産物を作っていける仕組みが、もっとできれば面白い。（生産者）
- ・ 農産物を加工すれば、生産物を無駄なく利用できる。ただし、収穫で忙しい時期には、加工までは難しく、ノウハウや設備費用なども考えると自分でやるのではなく加工を委託することも必要だ。（生産者）

### 【直売所の立場から儲かる農業への提言】

- ・ 好きなものを作って、余ったから何とかして欲しいと言われるが、そもそも作っている原料がみんな違う。作って余ったから加工するというのではなく、原料を誰に作ってもらうか、逆の発想から6次産業化に取り組むことも重要だ。（直売所）

### 【その他】

- ・ 農協の指導員なり、専門的知識を持つ人が少なくなっている。もっと指導に力を入れていただければ、農業をする方も増えてくるのではないかと。（直売所）
- ・ 農業をやりたい人と受け入れる人の情報が得られるシステムがあれば、農業者も若返りし、限界集落も減るのではないかと。（直売所）
- ・ 酪農ヘルパー制度のように、果樹農家にも派遣のような形で、繁忙期等に労働補完ができる仕組みがあれば、雇用も耕作面積も増えるのではないかと。（生産者）
- ・ 都会から帰ってきたが、県北には小さなコミュニティで仕事をする面白さがある。自分で色々しようとしている人は、仕事自体を楽しんでいる。そんな人が増え、密な街になればいい。人口を増やすだけが目的ではない。（生産者）

## 7 知事まとめ

- ・ 直売所は、作る人にとっても買う人にとっても必要な場所だ。皆さんが活躍することで、周りに元気が出てくるのが素晴らしい。皆さんの工夫によって、作る人も、買う人も幸せになり、それに関わる人も元気になるようなことを考

えていただきたい。

農業を広く食品関係の産業としてみれば、まだまだ良く変えていける可能性が十分にある。ちょっとしたアイデアからヒット商品が出てくる。是非、これからも御活躍をいただきたい。